

令和6年度 大河原教育事務所管内

子育てサポーター養成講座

今年度も大河原教育事務所を会場に、子育てサポーター養成講座を実施しました。

この講座の趣旨は、主に幼児や小学生、中学生の子供を持つ親に対して、子育てやしつけなどについて気軽に相談に応じたりアドバイスを行ったりする人材を養成するものです。

3名の講師の方々には、子育て・家庭教育支援に必要な基礎知識と実践についてお話しいただきました。受講者は、今日的課題について理解を深めるとともに、笑いあり、感動ありの有意義な時間を過ごしました。

今年度の講座を修了した受講者には、修了証が手渡されました。今後、それぞれの地域で御活躍されることを期待しております。

第1回：領域1「家庭教育支援の理解」



仙台ターミナルケアを考える会
事務局長 中保 良子 氏



【第1回：参加者の声】

- 中保良子さん、どうもありがとうございました。子育てサポーターになったばかりで聞いて本当にありがたいと思いました。日々の家庭教育が、世の中全体を良くしていくということが理解できました。
- 家庭教育支援とは、支援する側、支援される側という考え方ではなく、お互いに学びを深める関係ということをお心において、サポーターとして実践していきたいと思いました。今子育てをしている自分も、いろんな方に教えていただく気持ちで、やっていきたいです。

第2回：領域2「親子の理解とかかわり方」



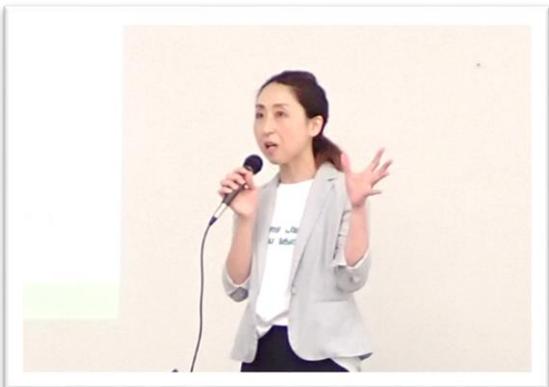
仙台大学 子ども運動教育学科
准教授 佐々木 和 氏



【第2回：参加者の声】

- 昔から「持って生まれたものだから」という言葉を知っていましたが、これが「気質かもしれない」と気付きました。子供だけを注目しがちですが、やはり親への気付きも大切なんですね。「親のみちしるべ」の実践、よかったです。
- 親子の関係について、興味深くお話を聞かせていただきました。私自身の子育てにも大変参考になることばかりでした。今後、サポートする立場にたつ時には広い視野をもって接することができればと思います。またいろいろなお話を聞ける機会を楽しみにしております。ありがとうございました。

第3回：領域3「総合的な理解～地域活動、父親の教育参画」



ファザーリング・ジャパン
東北代表理事 竹下 小百合 氏



【第3回：参加者の声】

- 男性も育児に参加することで、今まで女性の悩みとされてきたことが共有できるようになるのだということを感じました！ 片方に偏るのではなく、平等に育児をしていけたらいいと思います。
- 令和の時代の子育てはパパも大変！ でも体を壊してまで頑張らないで、どこかにヘルプを言える体制作りが必要だと痛感しました。まだまだ遅れていると思います。